

五輪 負の要素に思われたくない

新国立競技場計画について市民らが意見交換したシンポジウムで、発言する有森裕子さん＝6日、東京都渋谷区で



有森さん 涙の訴え

競技者の
思い代弁

都内でシンポ

新国立競技場の 総工費をめぐる経緯

2012年 11月	ザハ・ハジド氏のデザインに決定	1300 億円
2013年 8月	横文彦氏が計画見直し求める論文を発表	
10月	日本スポーツ振興センター(JSC)が試算	3000 億円
2014年 5月	JSCが設計を見直した基本案をまとめる	1625 億円
12月	文科、財務両省が、追加経費は国費以外で賄うことで合意	
2015年 3月	ゼネコン側が見積もりを提示	3000 億円
5月	下村文科相が舛添都知事と会談し、500億円の負担求める	
7月	JSC有識者会議が実施設計を了承	2520 億円

「オリンピックが負の要素に思われるようなことは、本望ではない」

女子マラソンの五輪メダリストで、二〇二〇年東京五輪招致活動にも協力した有森裕子さんが六日夜、東京都内で開かれた新国立競技場問題を考えるシンポジウムに参加。意見交換の場で司会者から請われてマイクを握り、「ほとんどのアスリートが言いたいこともあると思うし、意見もあると思う」などと語

った。

有森さんは「アスリートは協会に属し、そこで育ててもらい、皆さんの応援を受けて競技に没頭することが使命。その現場(協会)を多少なりとも触発するようなことはできない。その気持ちはくんでほしい」と、現役の選手たちが置かれた立場を代弁。

その上で、「心から願うのは…」と言葉を継ぐうとして突然、十数秒間絶句。涙を流

し、途切れ途切れの声で「オリンピックが、皆さんの負の要素のきっかけに思われるようなことは本望ではない。一人でも多くのオリンピックアスが応援していただけるよう、何かできればと思います、この会場に來ました」と話した。

「自分自身も招致活動に参加し、五輪を呼べたことを喜んだ」と有森さん。新競技場計画への自身の考えも明確には語らなかったが、発言には複雑な胸中がにじんだ。

有森さんは一九九二年バルセロナ五輪で銀メダル、九六年アトランタ五輪で銅メダルを獲得。二〇二〇年東京大会の招致活動では、各地で講演やイベントに参加するなど招致実現に尽力した。

旧国立競技場とは、チャリティーイベントを開くなど縁が深い。昨年五月に開かれた旧競技場のお別れイベントでは「(競技場の)この形がなくなるのは残念」と話していた。